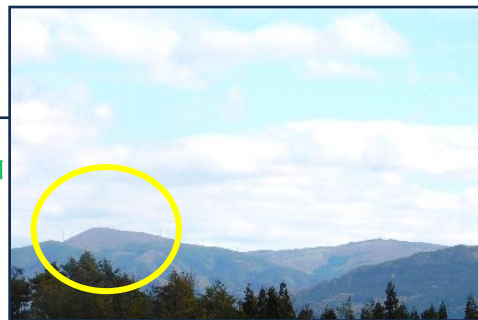


# 「種山ヶ原は今④2」

## 「大森山」は

黄色○が大森山 右種山ヶ原の物見山



種山ヶ原のとなりにあり、800年頃 人首丸と坂上田村麻呂との最後の決戦の場所。この頃朝廷は蝦夷討伐に幾度となく兵を送っている。胆沢平野ではアテルイとモレは民のことを考え、降伏し京都に連れて行かれるが、惨殺された。人首丸は最後まで朝廷と戦うことを決意し、北上山地の大森山を決戦の場とした。この時の大將は娘婿田村兼光。人首丸は戦いに負けたが、若き武将「人首丸」の名は地名として残っている。＜人首町、人首川、人首小学校 etc＞  
明治22年までは人首村だったが、米里村に村名をかえた。

## 「人首のルーツ守るべ！」

米里文化財調査委員会は7月28日に今年も10名〈千田義、高橋光、熊谷、菊池亮、菊池敬、菊池春、鶴田安西、千葉時、山崎〉が参加し、大森林道から入口までの1,2kmの山道と人首丸墓碑周辺の整備を行い塩とお神酒を上げて拝礼した。毎年草刈りをしているので、それほど草も伸びておらず2時間ほどで終了。周辺はまるで「トトロの世界」の雰囲気だ。人首丸墓碑の案内表示の根元が腐食し、替え時だ。3万円位かかるが、振興会からの補助が6万円。守るということは大変だ。大森林道からの表示板等は、廃材で作製。委員に大工さんがいるので、とても助かる。

【注意】大森林道からの道路脇に鹿やイノシシのワナがあるので、気をつけて下さい。ワナの近くに印があります。



## 「大森山を見続けてきた 103歳の千田ナオミさん」

ナオミさんのお宅から目の前に大森山が見え、秋近くなると大森山付近に朝陽が上る。日毎に朝日が少しずつ移ってくることを見続けてきた。100年以上も生きて朝日のありがたさを感じているという。

今は息子の武弘さん夫妻、孫夫婦、孫たちに囲まれて、幸せに暮らしている。

「みんなやさしくしてくれるので、幸せだ」と話してくれた。お元気で！



※朝日を拝む日拝信仰があり、米里の10区に「日拝供養」石塔がある。



麓からの朝焼けの大森山



物見山からの大森山 黄色の部分は放牧地

## 【水車小屋のオニユリ？クルマユリ？】

大森山の麓に坂上田村麻呂が人首丸を弔うために建てた麓山神社がある。その近くに古びた水車小屋があり、毎年夏になると屋根にオニユリが咲き、私達を楽しませてくれる。

水車小屋の屋根に咲くオニユリが暑さのために大変な状況になっています。今にも枯れそうな状況なのです。造る時に芝棟にわざわざ植えたオニユリだけに、大切に守って行きたいものです。日本で貴重な水車小屋の一つです。



※オニユリとクルマユリの違いはむかごがあるかないかだそうです。

種山ヶ原のクルマユ

## 宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」

今だからこそ、時々口ずさんで欲しい詩の一つ

米里保育所の子ども達が、『雨ニモマケズ』の全文を覚え、発表会等で地区民に発表する姿を見て、いつも感心して見ていました。先生方はもちろん、子ども達も立派！しかし閉所となり、過去のことになってしまいましたが、子どもたちの心の中に一生生き続けると思います。「人生・生き方」などに悩んだ時、この詩を思い出し、生き方を修正していくのでしょうか。宮沢賢治が自分の理想像をつづったものだと言われていますが、私たちには『雨ニモマケズ』のようにできないにしても、心の根底には流れている「生き方の原点」の一つのようには思えてなりません。

※「雨ニモマケズ」のモデルが近くにいたそうですね。

【賢治もびっくり】 太平洋戦争も終わり、食糧難の頃の話し

国語の教科書の宮沢賢治の詩『雨ニモマケズ』の中に、「一日ニ玄米4合ト」という部分がありますが、昭和22年の教科書で「一日ニ玄米3合ト」に替えられていたのです。食べるものが不足している時のこととはいえ、賢治先生も天国で驚いたことでしょう。GHQ（連合軍司令部）の指導で行われたようです。

【風の又三郎】 種山ヶ原・星座の森

